



湖底に沈んだ歴史を語り継ぐ

ダム建設によって美しいアルプスの山々の真ん中に出現した人工湖。
そのほとりには意外な形の建物が……



博物館の全景（提供・David Gill）

モンズニ峠はイタリアとフランスの国境に位置し、トリノからモダヌを経てリヨンにつながるアルプス越えの要所である。ハンニバルが象をつれてこの峠を通ったとか通らないうとか、カール大帝がこの峠を越えてスーザのランゴバルト王国を攻め

て、歴史的記録にはこと欠かない。設置はフランス電力公社

かのナポレオンも、エジプト遠征の帰りにこの峠を越えたが、そのときにこの地にピラミッドを建てると誓ったとか。しかし、それが実現したのは約一五〇年後の一九六八年、建てたのはフランス電力公社（EDF）であった。目的は、ダム建設のためにできたモンズニ湖一帯に関する記録を残すこと、そして湖底に沈んだ集落の追悼のためである。

したがって、このピラミッド博物館、エジプトに関連するものが展示してあるわけではない。かわりにこの地域の人びとの暮らしを物語る品々、冬のアルプス越え、イタリア領時代につくられた現フランス領にある防御要塞のこと、ダム建設に関する情報と湖底に消えた修道院の宿坊やアルプスの別荘に関する話がいつばいつまっている。

めりはりのある展示場

ピラミッドの底辺の一边に入口があるこの小さな博物館の展示場は一オーディオガイドで聞くことができ。豊かな歴史をあえてシンプルに展示し、小さな空間にしっかりと間をとった展示方法が印象的であった（写真2）。

地域の暮らしを雄弁に語る

ふたつめのセクションには、馬具やマネキンに着付けた女性の衣服一式、チーズ造りの道具など、この地域の歴史や生活にちなんだ「もの」が展示されている。一部透明板とった床下に埋蔵品が見えるなど、気の利いた演出が見えられた。

きくさわりつこ
菊澤 律子
民博 先端人類科学研究部
専門は言語学。オーストロネシア諸語、オセアニア先史研究。文法構造の史的变化に関する研究。言語をとおした先史文化研究などに関心をもつ。サヴォワへは第一回国際オーストロネシア言語学会（二〇〇九年七月）出席のため訪れた。



歴史を物語る展示室。入口側からみると年代と人名が並んで年表のよう。詳細を聞きたいときにはオーディオガイドで解説を聞くことができる（写真1）



同じ部屋を反対側から見たところ。奥に白く見えているのがこの地域の立体模型（写真2）

階のみ。ピラミッドの軸を中心に反時計まわりに一周して入口の反対側から戻ってくる、というシンプルな順路になっている。展示場は三つのセクションに分かれている。

ひとつめは歴史概観。といっても、真ん中におかれた地域の模型、その両側にパネルが重なるだけ。それぞれのパネルには、古い順に年代と人名が記されており、端から全体をみると簡単な年表のよう（写真1）。「年表」中の各出来事の詳細は無料の

三つめの部屋はコンピュータや映像などの端末がたくさん並ぶ情報室。アルプス越えやダムの開発などに関する映像を見ることが出来る。いずれも規模は小さいながら内容が充実しており、全部見るには意外に時間がかかった。

標高二一〇〇メートルの地に静かにたたくむ小粒だがびりりと辛いこの博物館「夏季のみ」という開館期間が毎年六月半ばから八月末と短いことも、この地域の人びとの暮らしの側面を雄弁に物語ってはいいまいか。